夕刊フジ　2022 年 1 月 29 日（28 日発行）

ニッポン ドクター和の 臨終図巻

㉔⓪ 漫画家　水島新司

仕事を長続きさせる秘訣は別の何かをやり続けること

『ドカベン』が少年漫画誌に連載開始されたのは1972（昭和47）年、僕が中学生のとき。男子は皆、この漫画に夢中になり、（僕は陸上部でしたが）甲子園に強い憧れを持ちました。高校生のとき、甲子園球場でビール売りのバイトをしたのも、もしかしたら『ドカベン』の影響かもしれません。

この人気漫画は、その後アニメになったことで国民的な支持を得て、中学生だった僕が還暦になった2018年まで連載は続きました。その間に、『野球狂の歌』『あぶさん』等の野球漫画も大ヒット、一体どれだけの少年がこの人の作品に影響され、野球選手になったことでしょう。

そんな偉大な漫画家、水島新司さんが1月10日、都内の病院で亡くなりました。享年82。死因は、肺炎との発表です。

2020年12月に、漫画家引退宣言をされていました。デビューは僕が生まれた年の1958年ですから、なんと63年間も漫画家生活を続けていたことになります。脱帽です。

このところ、僕らの世代にとってレジェンドとも言える漫画家が次々と鬼籍に入られて、寂しさが募ります。昨年の連載でも、『ゴルゴ13』のさいとう・たかをさん（享年84）、『カムイ伝』の白土三平さん（享年89）、一昨年は『釣りキチ三平』の矢口高雄さん（享年81）、『浮浪雲』のジョージ秋山さん（享年77）の死を取り上げました。

以前ある雑誌から「なぜ漫画家には早死の人が多いのか」という取材を受けたことがありますが…こうして振り返ると、そうとは言い切れませんよね。確かに漫画家という職業は、長時間椅子に座って仕事をしなければなりません。定期的に運動をしていても、生活の中で座り過ぎている人は、そうでない人と比較して寿命が短く、肥満度が高く、2型糖尿病や心臓病の疾患率が高いとの報告があります。

コロナ禍によりテレワークが増えていますが、東京医科大学の調査では、在宅勤務の人は職場勤務の人に比べ、仕事中に座っている時間が1時間以上長いことがわかりました。これを読んでドキリとした人は、1日30分でいいです。歩いてください。

しかし、60年以上も第一線で活躍された水島さんは、ずっと大好きな草野球を続けていたそうです。「年間130試合の草野球と、親への仕送り。これを止めたら漫画の方向性を見失うような気がして、絶対に止められないんですよ」とかつてインタビューで語っていたことも。

どんなに仕事が忙しくても、仕事以外の何かをやり続けること。その好循環が、仕事を長続きさせる秘訣（ひけつ）かもしれません。

長尾和宏（ながお・かずひろ）　医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。